

視覚障がいのある方のサポート 「避難誘導の場面」より

災害が起きた時、みんなで身の安全を守りながら学校のグラウンドなどに移動することがあります。その後の避難所での生活も含めて、視覚障がいのある方にどんなサポートが必要か、一緒に考えてみましょう

グラウンドに移動してきた①~③の方は、どんなことに不安を感じているのだろう？



チェック 周囲の状況が見えないため、困ることがあります

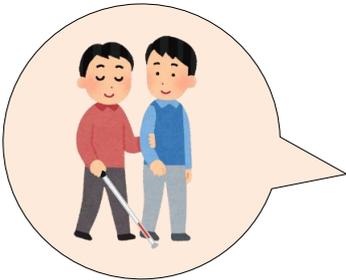
- 身の周りの被害状況の確認が困難で、安全に関する判断が難しい場合があります（避難行動の際、一人で行動することも困難になります）
- 張り紙、掲示物が見えないため、避難所での情報（「物資の配給について」「避難所での生活ルール」など）を知ることが難しい場合があります
- 避難所では、多くの人と物が頻繁に行き交います。周囲の状況確認が難しいので、転倒など、怪我のリスクが高まる場合があります
- 意思を伝えることが出来ずに、孤立してしまう場合もあります

ポイント

基本事項 「声をかけるときの配慮」

- どのように誘導すればよいか、声をかける
例：「私の肩や肘につかまりますか？」「荷物は私が持ちますか？」
- ご本人から離れる場合、今いる場所が「どこで」「どんな場所で」「周りに何かあるか」伝え、安全な場所（「座れる場所」「手すりがある場所」）まで誘導する
例：「〇〇避難所のグラウンドにつきました。△△町内会の皆さん全員、避難所の中に入れるまでグラウンドに座って待機しています。□□さんも、ここに座って待機してください」

ポイントを踏まえて、どんなサポートが必要か
一緒に考えてみよう

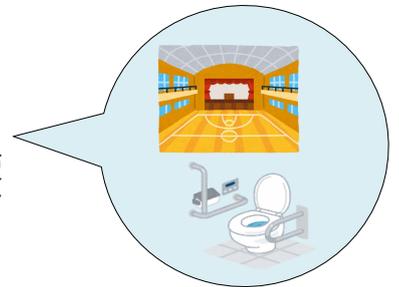


①誘導するときは急かさず、ご本人のペースに合わせる

- 避難所に向かう際、どのように誘導すればいいか、聞いてください。
- 避難所に向かう際、家、停電、火事、道路などの状況を伝えてください。
- どこに行くか、どこに逃げれば安全か、伝えてください。
- 支援者の肩や肘などにつかまってもらい、周りの状況（「段差があります」など）を伝えながら、ゆっくりと、半歩前を歩いてください。
- 手や杖を掴む、引っ張る、背後から押すと、転倒の危険があります。
- 方向は時計針の位置（例：右は3時の方向）で伝えることも有効です。

②今いる場所、周囲の位置関係を伝える

- 今居る場所が「どこ」で「何をやる場所」なのか、「誰と一緒に」で「今から何をやるのか」周囲の状況を伝えてください。
- トイレの誘導は、初めて行く場所であればトイレの中まで同行し、使用方法や便座、手すりの位置、ペーパーの位置など、中の様子を伝えてください。



③掲示物、表示物は、内容を読み上げる

- 慣れない場所や初めての場所は、誰もが不安を感じるものですが、視覚障がいのある方は、周囲の状況を確認することが困難な場合があり、不安を感じる場合があります。
- 避難所などで張り出される掲示物（「生活ルール」「食事配給時間、場所の事務連絡」など）については、内容を読み上げてください。
※館内放送は、周囲の状況次第では聞き取りにくい場合もありますので、ご本人の前で読み上げることも必要です。

チェック

盲導犬について

- ご本人が生活する上での大切なパートナーです。ペットと判断してご本人と離すのではなく、避難所運営担当者と相談の上、ご本人と一緒に過ごせる場所や、盲導犬の排泄対応などの配慮が必要となります

聴覚障がいのある方のサポート 「避難所での生活場面」より

避難所では、地域の皆さんと共同生活を続ける上で必要となる様々な情報がアナウンスされます。音声による情報が飛び交う中で、聴覚障がいのある方にどんなサポートが必要か、一緒に考えてみましょう

体育館の中に居る方は、どんなことに困っているのだろう？



チェック 音声での情報収集が困難で、困ることがあります

- 音声による避難警報（同報無線など）が聞こえず、災害の状況、避難方法、避難場所などの情報に気づかないことがあります
- 救助の音、呼びかけが聞こえず、孤立する場合があります
- 停電、暗い場所など、視覚情報が入りにくい場所では、周囲の状況を把握することが難しい場合があります
- 避難所で、放送や呼びかけが聞こえず、食事の配給などの援助が受けられない場合があります

ポイント

基本事項 「情報を伝えるときの配慮」

- 伝えたいことを、文字に書く
- 筆記用具が手元がないときは、別の手段を使用する
例：携帯電話の機能を活用⇒メモなどの機能を使い、伝えたい情報を文字に起こす
ジェスチャー⇒伝えたい情報を、身振り手振りで表現する
- 口の形で言葉を読み取れる場合もあります。情報を伝える方は、相手に顔を向け、口を大きく開けて話す
- 手話が出来る方は、手話で情報を伝える

ポイントを踏まえて、どんなサポートが必要か
一緒に考えてみよう

体育館の中に居る方に、**グラウンドでの物資配給情報が伝わっていないようです。**

①～③の方法で情報を伝えてみましょう



①音声情報には視覚情報（文字、手話など）をつける

- 筆記用具、携帯電話、タブレット機能など、文字に起こせるものを使い、情報を伝えてください。
- 文字に起こせるものが手元がない場合は、ジェスチャーを使い、身振り手振りで情報を伝えてください。
- 周囲に手話が出来る方が居る場合、サポートを依頼してください。

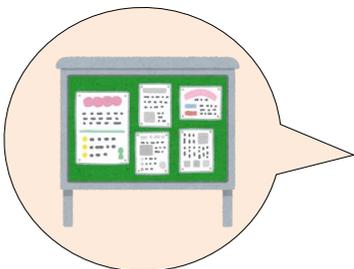
②口の動きから、情報を読み取れる場合もあります

- 情報を伝える方は、相手に顔を向けて、口を大きく開けて話をしてください。
- ゆっくりと、文節で区切って、情報を伝えてください。
例：「今から／校庭で／カレーを／配ります」



③避難所の掲示物に工夫を加える

- 聴覚障がいのある方が、困ったときに「どこに行けばいいか」「誰に聞けばいいか」などを、避難所の情報掲示板に掲示をしてください。
- ホワイトボードなどの筆記用具を、いつでも使用出来るように置いてください。
- 「50音指差し表」を掲示すると、ご本人とのコミュニケーションで活用出来ることもあります。



チェック

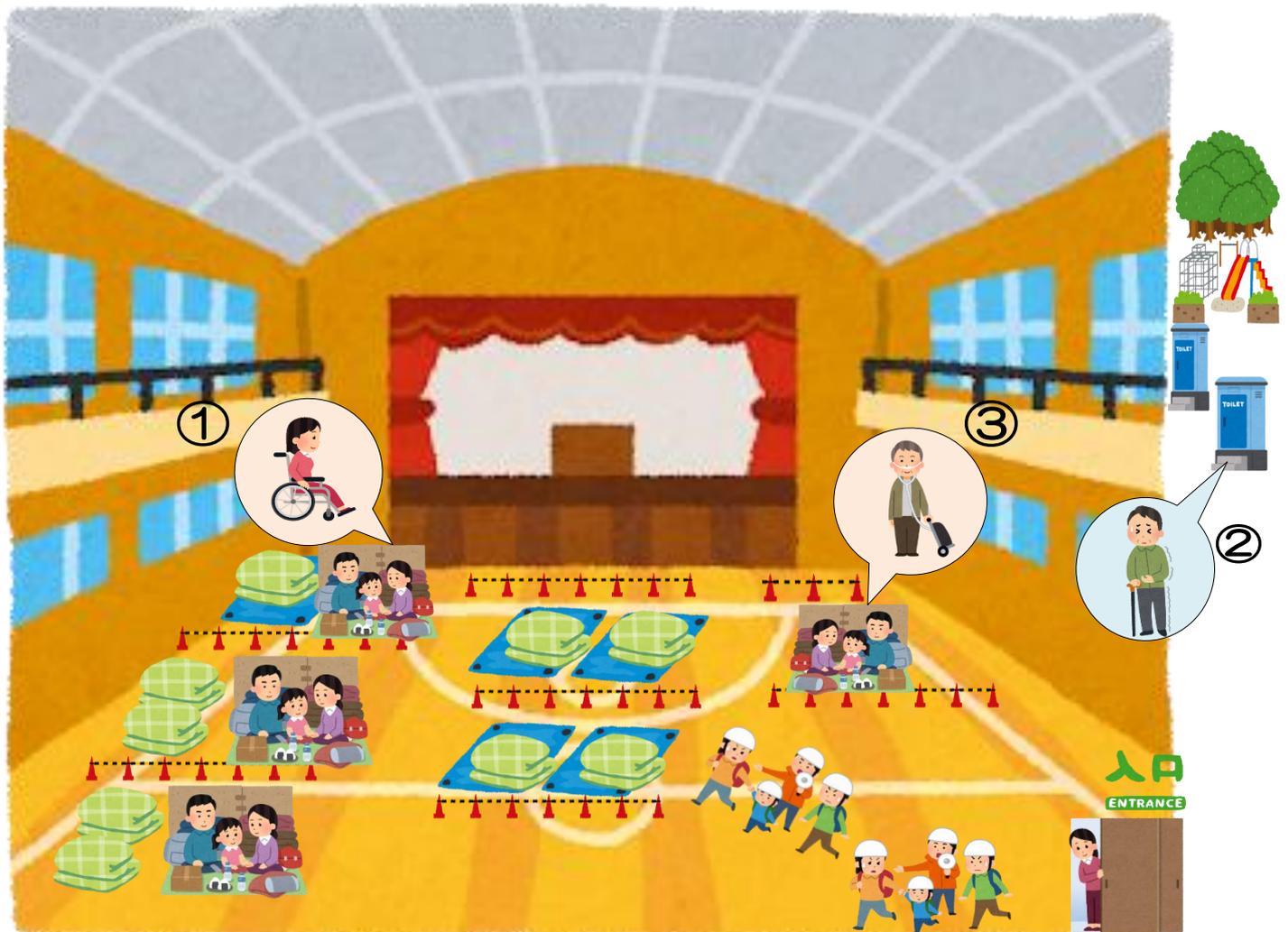
補聴器について

- 補聴器をつけていても、全ての会話が聞こえる訳ではありません（早口で一気に伝えると、より情報が伝わらない場合もあります）ので、文節で区切り伝えることが重要になります。場合によっては筆談なども併用してください

身体障がい（肢体不自由・内部障害）のある方のサポート 「避難所での生活場面」より

避難所の限られたスペースの中で多くの避難者が生活をします。また、物資の往来もあります。避難者と物資が頻繁に行き交う環境の中、身体障がい（肢体不自由・内部障害）のある方にどんなサポートが必要か、一緒に考えてみましょう

①～③の方は、どんなことに困っているのだろう？



チェック 身体障がい（肢体不自由・内部障害）のある方は、どんなことに困るの？

- 車椅子、杖などを利用しなければ、移動が出来ない場合もあります
- 自力歩行、素早い避難行動が困難な場合もあります
- 瓦礫、飛散物が多く残されている場所、段差（階段など）のある場所、他者の往来が多い場所の移動が困難な場合もあります
- エレベーターが止まると、移動が出来ない場合もあります
- 内部障がいのある方は外見で判断することが難しい場合もあり、避難行動、避難所での生活で周囲の方の支援を得にくい場合があります

ポイント

基本事項 「サポートを始める時の配慮」

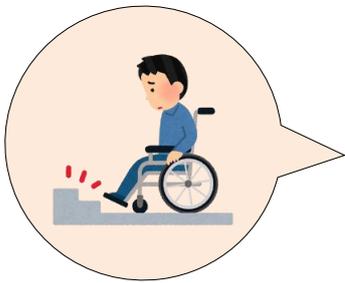
・どんなサポートをすれば良いか、どの範囲までサポートをすればよいか、まずはご本人に確認する

例：「車椅子を押しませんか？」「手を添えませんか？」など

・どこまでサポートをすれば良いか聞く
・移動のサポートをする方は、躓く、ぶつかるなどにより、転倒のリスクがあるものが周囲にないか、状況の確認をする

例：「段差」「瓦礫」「支援物資の保管場所」 など

**ポイントを踏まえて、どんなサポートが必要か
一緒に考えてみよう**



①避難所での生活場所に配慮する

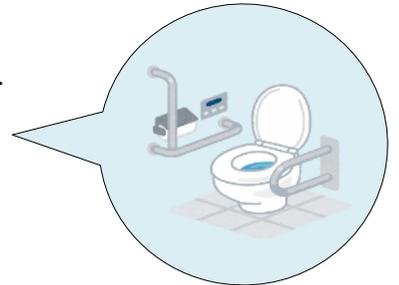
・「トイレに移動出来ない」「避難所への出入りが出来ない」ことも大きな困難となります。出来る限り、トイレや出入り口に近い場所に居場所を確保してください。

・避難所全体で使用する物品については、置く場所を工夫、整理することで、車椅子などを使用しても安全に通れるよう、移動経路を確保してください。

②和式トイレ使用が困難な場合が多くなります

・車椅子、杖を使用している方は和式トイレの使用が困難です。洋式トイレで広い空間の確保が必要となります。

・身障者用トイレが設置してある場合は、こちらを優先してください。
・初めて利用する場合は、トイレ内まで誘導し、使用方法を伝達してください。



③内部障がいのある方の支援

・内部障がいのある方は個別に支援が必要な場合があります。ご本人と相談しながら対応を行ってください。

・近くに同行しているご家族、知人が居る場合、ご本人を交えながら対応方法を検討してください。

・酸素ボンベを引いて避難された方に対しては、転倒や破損をしないような居場所の確保をお願いします。

チェック

内部障害について

・内部障害とは、「心臓機能障害」「腎臓機能障害」「呼吸器機能障害」「肝臓機能障害」「膀胱・直腸機能障害」「小腸機能障害」「ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫機能障害」の7つを指します

・避難所でのサポート内容はご本人の状況によって違いもあります。ご本人、同伴者、避難所運営の方と相談しながら、必要な配慮について検討してください